

# 2度目の留学

天津外国語学院

10F1019 貞永摩衣

今回の留学は私にとって2度目の留学でした。1度目は特別留学で半年間、天津の南開大学に留学しました。この1度目の留学のおかげで更に中国に興味を持つようになり、中国語の勉強にも更なる向上心を抱くことができました。



最初に、今回の留学先を決める際、実は天津外国語学院は私の第一希望の場所ではありませんでした。天津は一度行ったことがあるし、天津外国語学院というところは小さいと聞いていたので、何か物足りなさを感じました。その頃、天津外国語学院がどのような学校かも知らず、知ろうとせず、ただ有名な大きな大学の名ばかり追っていたような気がします。最終的に何かの縁があり、また天津に行くことになり、天津外国語学院に決まりました。私の希望する大学の中になかった名前なので少し戸惑いましたが、また天津に戻ると、嬉しく感じました。まず先輩とコンタクトを取り、情報を得ることから始めました。情報を得ることで、自分がこれから行く学校のことを知り、南開大学とは違う風景、違う環境にわくわくしました。



8月末に名古屋を発ち、その日の夜、無事天津外国語学院に着きました。私は寮の予約をせずに行ったので主に使われている寮はどこもいっぱい、建て直す為に閉鎖していた寮に一時的に住むことになりました。その寮はどこの寮よりも古く廊下は木造でできていて、歩くとギシギシいうようなところでしたが、とても雰囲気がよく、またその寮の中で

この先一緒に留学を盛り上げていくことになる友人達とも出会えることができました。今回の留学において、語学の勉強だけでなく、人間関係の勉強にもなったと感じます。寮内の友人達だけでなく、私より長く滞在している先輩方や天津で働いている方と接し、貴重な話を聞かせていただき、自分を見つめ直す機会を得ることができました。

学校の授業は朝8時から始まるので、慣れるまで朝は辛かったです、なんとか行っていました。授業を行う先生は当然中国人の先生ばかりで、一切日本語がありません。しかし、レベルに合わせて授業を行ってくれるので全然わからない程ではありませんでした。前半期、私は準中級で勉強をしていました。教科は精読、リスニング、口語、閲読と4教科あり、1教科それぞれ違う先生が授業を行います。私の精読とリスニングの先生はサバサバした人でズバツとものを言う人でした。リスニングの先生に関しては「何でわからないの?」とか「それで合ってると思う?」とズバズバ言う先生だったので最初はめげそうになりましたが、答えが合っていれば褒めてくれるし、わかりやすい性格なので私はリスニングの先生が好きでした。後半期では準高級を選び、教科は準中級と同じ4教科です。準高級に入り、驚いたのは精読の先生の話すスピードの速さです。初めのうちはそのスピードについていけず、「先生、ゆっくり話してもらってもいいですか?」と言うことが多かったです。しかし、先生はいつも「あなたたちのリスニングの勉強にもなるでしょ?」と言って授業終了5分前になると話すスピードが更に速くなりました。当初はこのクラスでやっていけるのか心配でしたが、慣れて行くうちに先生の話すスピードもさほど気にならなくなりました。先生の言った通り、リスニング能力も上がったのだと思います。また、準高級は少人数だったので、授業がとても受けやすく、発言する機会が多かったので授業も楽しかったです。





私は午後、体育の授業や文化の授業を選択していなかったので授業は午前中だけでした。午後は中国人の学生と“互相学習”をしていました。“互相学習”とは私が中国人学生に日本語を教え、中国人学生が私に中国語を教えてくれるという、お互いが教え合う勉強方法です。私は勉強というより、彼女達と一緒にご飯を食べながら、ドラマや音楽の話、最近話題のニュースなどを中国語や日本語を交えて話していました。時には、勉強でわからないところを聞いたり、真面目な話をしたりもしました。“互相学習”の相手はたいてい日本語学科生の子ですが、私は英語学科や韓国語学科といった日本語を第一として専攻していない学生とも勉強をしていました。彼女達と勉強する場合はほとんどと言っていいほど日本語を使わないので、とても私のためになりました。中国人学生と勉強を通じて仲良くなり、後に勉強という枠を抜けて友情が築けたことを嬉しく感じます。



今回、天津にて2度目の留学をし、1年という長いようで短い貴重な時間を過ごして感じたことは、留学は勉強だけでなく、多くの人と出会い、人間関係を築き上げていく中で大切な何かを教えてくれたということです。「何か」が何なのか具体的には言い表せませんが、人と人との関係を保っていく間で必要な「何か」を私に教えてくれたような気がします。今後も留学中に出会った人達と良い関係が続けられるといいです。

最後に、両親をはじめとする、国際交流センターの方々、先生方のサポートの下、1年という長期留学を無事終わられたことを心から感謝いたします。ありがとうございました。

